

## 空を舞う遊び ライブ演奏 おいしい屋台村・・・ 楽しみながら軍都誕生の歴史を学ぶ 第2回 桜の森公園春まつり ～広がれ平和の輪～ 開く

かつて鈴鹿海軍航空隊があった鈴鹿市の桜の森公園で3月30日(日)、「第2回春まつり～広がれ平和の輪～」が催された。今回から凧あげ、竹とんぼなど「空に舞う」遊びを子どもたちに楽しんでもらったほか、平和への思いを込めた音楽ライブや9軒が出店の屋台村などでまつりを盛り上げた。鈴鹿市誕生の歴史を学ぶ対談、壊された旧海軍の格納庫をイメージしたモニュメント「地・天」の見学と作者の三村カさんの話もあり、楽しみながら戦争と平和を考える一大空間をつくった。

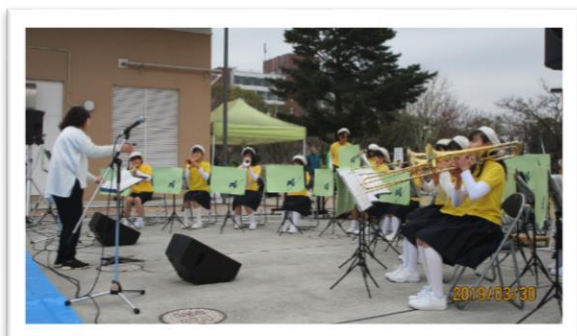
### ■□■ 鈴鹿市誕生の歴史 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

神戸小学校金管バンドクラブのすてきなオープニング演奏のあと、「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の中森成行と桐生小百合が「知っていますか？ 鈴鹿が誕生したころ」と題して対談した。

「さかのぼること80年。中国と戦争していたころ、パイロットを養成する鈴鹿海軍航空隊がつくられ、最終的には3万人の卒業生を出した」。旧制神戸中学の頃、学徒動員で働いた山口俊彦さん(故人)の体験談を交えて説明。

「現在の本田技研工業鈴鹿製作所やイオンモール鈴鹿があるところには鈴鹿海軍工廠があり、また鈴鹿川の北側には北伊勢陸軍飛行場や気象連隊など陸軍関係の施設があった。これらの建設をスムーズに行うため、鈴鹿郡、河芸郡の2町12村が軍の命令で合併し、昭和17年12月1日に誕生したのが鈴鹿市だ」

こうした合併による軍都は全国で初めて。当時の人口は5万人。軍施設は市域の約1割を占めた。



神戸小金管バンドのオープニング演奏



対談トークの中森さん(右)と桐生さん



花」など5曲を選びました。

ライブ最後はプロのアイドルグループ **EX VIC:CESS** が洗練された歌で全国から訪れたファンも混ざり、盛り上げていただきました。

ライブ後半泣き出しそうな空は、終了まで涙をこらえてくれて、ライブ終了と同時にザーっと！！お天気もこのイベントを応援してくれていたみたいですね。（青井 和徳）

■□■ **屋台村に9店** ■□■□■□■□■□■□■

和菓子の「(有)大徳屋長久」、あられの「(有)北野米菓」  
時雨煮の「(有)新星食品」、パンの「ミルク(有)」、牛串の  
「(株)くすの木」、カレーの「カレーハウスドン」、焼き鳥  
の「わかKARA」、和菓子の「松美堂」、から揚げの「〇元」  
が出店。寒かった昨年とは見違える出足で、みなさん舌鼓  
をうってくれました。



にぎわう飲食屋台村

■□■ **モニュメント 地・天** ■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

モニュメントの前で、制作した彫刻家 三村 力 さんが語る。

「格納庫を初めて知ったのは 小栗 康平 監督の映画『埋もれ木』の撮影のお手伝いをしたとき。膨大な空間にびっくりした。3棟あった格納庫は取り壊されてしまったが、制作にあたり、格納庫の柱と回転する戦闘機をイメージした。正面から見える輪に平和の思いを込めた」

中森さんが隣の番兵塔と正門について話す。そこで紹介したのは、鈴鹿海軍航空隊の教員をしていた 甲斐 友吉 さんの新聞声欄への投書。特攻隊に選ばれた、と直感し母へ遺書を書いた。名古屋航空隊で訓練したが、出撃前日の12月7日、大地震(東南海地震)が襲う。飛行機が壊れ作戦中止。

「奪われていた命を再び与えられた思いだった」と書く。中森さんが贈った「鈴鹿の戦争遺跡」へのお礼の手紙には「あのころの同期も半数が戦死して、今生存している者は数える程です。平和、万歳！有難うございました」と結んであった。



モニュメント前で話す三村 力さん



モニュメント 地・天

# 「春まついを新展開のテコに」 第11回 市民の会総会開く

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の総会が約30人の参加を得て、4月13日（土）にジェフリーすすかで開催されました。第1部では活動計画や予算等の審議が行われ、実行委員会方式で開いた「桜の森公園春まつり」を今後の活動のテコにしていくことなどが示されました。

共同代表の竹内 宏行 は冒頭の挨拶で「継続は力なり」の言葉を引きながら、活動が長く続けてこられたことへの感謝とともに、各種申請手続き一つとってみてもスムーズに進むようになったことは会の活動が行政・企業・学校などに広く認知されてきた証でないかと話しました。

活動計画の中で、夏休み戦争遺跡親子見学会、市制記念のパネル展示と講演会、鈴鹿市の平和への祈り展への参加、各地の平和資料館の見学など従来の活動を大切に続けていくのに加え、「桜の森公園春まつり」を新展開のテコにしていくことにしました。会場が鈴鹿海軍航空隊跡地であることが重要な意味を持ち、多くの人たちに来てもらって楽しみながら全く知らない人に少しでも歴史を知っていただく絶好の機会となる。そうした広がりをつくるのが念願の平和資料館建設にもつながっていくと考えています。

今回総会は会の発足から丸10年という節目の年を経て、再スタートする大切な年度に位置付けられ、時あたかも、平成から令和へ移り変わる新しい時代にもあたります。もう一度「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の名称に込めた思いに立ち返り、会員のみなさんと一緒になって平和資料館建設等に向けた様々な活動を推し進めてまいりたいと存じます。引き続きご協力をお願い致します。

市郷土史研究会との共催により、朝日新聞本社編集委員の伊藤 智章 さんから『「語り継ぐ戦争」を取材して』と題した話を伺いました。



総会のようす



講師の 伊藤 智章 さん

# 「語り継ぐ戦争」を取材して

朝日新聞名古屋本社編集委員 伊藤 智章 さん

伊藤さんも毎年8月になると多くの戦争記事を書いてこられたという。しかし「8月ジャーナリズム」という言葉があるようにどこか「通り一遍」の、お祭りのように書いてきた感が否めなかったという。そこで、戦後70（2015）年を契機として戦争体験者の声を「じっくり聞いてみたい」とデスクに提案し、2週間に1回の「語り継ぐ戦争」のコーナーが誕生したそうだ。その「相手のことをじっくり聞いてみなければいけない」とのジャーナリストとしての姿勢は、「長良川河口堰」問題から「伊勢湾台風」や岩手県宮古支局での「東日本大震災」の災害取材をとおして養われてきたとも語られる。これまで取材された証言者80人のなかから紡ぎだされた何人かの話を紹介してくれた。

南太平洋のガダルカナルで戦った元兵士は戦場の様子を語っている。戦場では敵・味方の兵士は塹壕に立てこもっていることが多く、その時が一番恐ろしいと。バンバン撃ち合いを連想するのは戦争映画の見すぎだと。

戦艦大和に乗船し、大和が生涯のドラマであった水兵の話もあった。トイレは洋式、サイダーをつくる機械もあったなど誇らしげな話は尽きなかった。まさに大和ホテルであったようだ。

戦後28年、グアム島から帰還した横井 庄一さんの奥さんへも取材をされている。帰国した後の横井さんに浴びせられたねたみにはよく電話で謝っていたという。住まいを資料館にすることが横井さんの遺言で、今は記念館になっていると。

松阪市制30周年記念事業のひとつ「戦没兵士の手紙集」の発刊が詩人 竹内 浩三 を世に知らしめるきっかけになったという。当時の担当者は竹内の詩「骨のうたう」の存在に驚き、全国版での手紙集発刊に至った経緯を語っている。

職業軍人であった父親が2・26事件の関係者と手紙のやり取りをただけで朝鮮、旧満州へ転出させられた話もあった。家系は津藤堂藩の武士で各藩の多くの士族が明治維新後に職業軍人になったのではと。

旧満州開拓団における「性接待」の話は何ともやるせない。亀山の国民学校の子どもたちがケシの収穫を手伝った話、軍国少年が余りにも食事がまずいと四日市の軍需工場の寮で起こした騒乱の話もあった。体験者への取材から戦争中にも普通の生活が存在し、日常のなかにも様々な戦争があり、戦争とは別世界のものではなく複雑なものだと感じた。

また、今取り組まれている未解決の戦後補償の問題についても話が及んだ。沖縄は唯一地上戦があり民間人の多くが犠牲になったが集団自決した人たちには準軍属として補償金は出たが、弾にあたって死んだ人には出ていない。多くの児童を乗せ撃沈された対馬丸には補償はあったが、他の疎開船にはなかったなどの不公平さには全く理屈が破たんしていると。ドイツ国内でも地上戦があり多くの民間人は亡くなっているが、補償に軍民差はないという。戦後70年経ってもこうした問題に対し裁判を起こしている人の存在を知ってもっと早く新聞で取り上げるべきだった、大変悔やまれると述懐された。戦争は終戦で決して終わっていないことを改めて思い知らされた。

## 先進的な平和ミュージアム 見学会③

# 満蒙開拓平和記念館

(長野県・阿智村)

鈴鹿市にどんな平和資料館を作るのか。イメージをふくらませるために、これまでに滋賀県平和祈念館、ピースあいち、名古屋市見晴台考古資料館（高射砲陣地）など、各地の先進的な平和ミュージアムを見学してきました。第3回はいいよ、待望の満蒙開拓平和記念館（長野県）です。

長野県といっても中津川（岐阜）から恵那山トンネルを抜ければすぐ。中央道を2時間ほどのドライブです。今回は経費節減のため、乗用車乗り合わせで行きます。



## 6月29日(土) 9:00

### フラワーパーク第3駐車場集合

フラワーパーク発→鈴鹿IC→（東名阪）（名二環）（中央道）→恵那峡SA（昼食）→飯田山本IC→ **満蒙開拓平和記念館（12:30～14:30）**

近くにある長岳寺（満州残留孤児を描いた映画『望郷の鐘』の主人公・山本慈昭さんのお寺です）も見学します。

満蒙開拓平和記念館14:30発→湯ったりーな昼神（15:00～15:30）→園原IC→（中央道）（名二環）（東名阪）→ **フラワーパーク18:00着（予定）**

**参加費は3,500円、定員は30名（先着順）**です。参加を希望される方は、下の用紙で**6月15日までに**ファックスかメールでお申し込み下さい。

- ファックス 059-386-1725（山門）
- メール [r-dolce@mecha.ne.jp](mailto:r-dolce@mecha.ne.jp)（山門）

主催：鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会  
連絡先：竹内 宏行（059-388-6508）

6月29日見学会参加申込書

6月15日までにお願いします

参加者のお名前	年齢	ご住所	お電話（できれば携帯電話を）

# せんそういせき けんがくかい 戦争遺跡親子見学会

## 第6回 (2019年) 鈴鹿海軍航空隊・鈴鹿海軍工廠コース

「戦争遺跡」を知っていますか？

70年以上も前、日本が戦争をしていた時につくられた建物などのことです。

「軍都」として誕生した鈴鹿市には、たくさんの戦争遺跡がのこっています。

戦争遺跡から平和や戦争について知りましょう。

夏休みの自由研究にもどうぞ。



鈴鹿海軍工廠・発射場 (鈴鹿市住吉)

### 7月27日(土) 8:30~12:00

桜の森公園南・戦争遺跡モニュメント前に8:20集合

鈴鹿科学医療大学白子キャンパス入り口付近です (鈴鹿市南玉垣町)

見学場所 (予定) マイクロバスで移動します

鈴鹿海軍航空隊 (正門、哨所) → 鈴鹿海軍航空隊格納庫の部材 (初公開) → 鈴鹿海軍工廠の工場跡 → 発射場 → 集合場所



鈴鹿海軍航空隊・格納庫の部材 (鈴鹿市安塚町)

- ご案内 岩脇 彰 (亀山南小学校教諭)
- 参加費 お一人1,000円 (バス、保険代)
- 定員 25名 (先着順です)

○参加を希望される方は、7月19日までに下の申込書でファクスまたはメールでお申し込みください。

電話・ファクス 059-386-1725 (山門)

メール [r-dolce@mecha.ne.jp](mailto:r-dolce@mecha.ne.jp) (山門)

- 「親子見学会」ですが、お一人でも参加できます。
- お車は、桜の森公園駐車場をご利用下さい。

主催：鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会  
連絡先：竹内宏行 (059-388-6508)  
後援：鈴鹿市教育委員会 (申請中)

7月27日見学会参加申込書

7月19日までにお願いします

ご住所	参加者のお名前	年齢	お電話 (できれば携帯電話)	その他の留意事項

# 8月2日(金)~4日(日) イオンホールで平和への祈り展

「2019 平和への祈り展」は8月2日(金)から4日(日)まで、イオンホールで開催されます。「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」も市民実行委員会の一員として参加します。

今回は「戦中・戦後の暮らし」をメインテーマに展示するほか、原爆関係、サダコ、折り鶴コーナーなどが設けられます。戦時中の暮らしについて話を聞く講演会、鈴鹿麦わら帽子の会の朗読劇「今は春べと 咲くやこの花」などが企画されています。

どうぞ皆様、ご家族ご友人お誘いあわせのうえ、お気軽にご来場ください。

## ホームページをリニューアルしました！ さらに会報の装いも新たになりました！

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」のホームページがリニューアルされ、2019年4月27日に更新されました。一度ご覧になってください。アドレスは

<https://suzukasensoiseki.jimdofree.com/>

です。会のあゆみや今までの会報もダウンロードできます。ご利用ください。

▼▼▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△

発行 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 竹内 宏行・中森 成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家 1-2-47

電話 059-388-6508

Mail ta818hi@mecha.ne.jp

△▼△▼△▼▼△▼△▼△▼△▼△▼△